

白バラ通信

No.15

【ご案内】

☆ 本年4月に映画「南京－引き裂かれた記憶」の上映会を行いました。その際講演された神戸青年学生会館館長の飛田さんが呼びかけられた「神戸・南京をむすぶ会訪中団」に参加された工学部の浦野俊夫さんから、撮影してきた写真も見せていただきながら報告を聞きたいと思えます。多くの方のご参加をお待ちしています。

また、11月7日は灘区9条の会が、「南京－引き裂かれた記憶」の上映と講演会も企画しています。11月3日には神戸憲法集会も開かれます。こちらにもふるってご参加くださるようお願いいたします。



◎ 改めて南京大虐殺を考える

(神戸大学教職員九条の会主催・灘区9条の会共催)

11月27日・金曜日 18時～

理学部Z棟C103 (入場無料)

報告 浦野俊夫さん(工学部)

「神戸・南京をむすぶ会訪中団に参加して」

神戸・南京をむすぶ会の第13次訪中団に参加して南京を訪問しました。初日には虐殺の行われた場所に建てられたいくつかの記念碑を訪問し、安全区と呼ばれた外国人居留区で多くの中国人の命を救ったドイツ人シーメンス社所長ラーベやアメリカ人教師ヴォートリンの住居や学校を見学しました。翌日には新築された侵華日軍大屠殺遇難同胞記念館を見学、生き残り生存者の証言を聞きました。またたまたま記念館で始まった日本の漫画家たちが描いた「私の8・15」展の開幕式にも参列しました。参列していた漫画家の中で私の知っているのはちばてつやだけでしたが。記念館は日中の近代史

に関わる展示が客観的・総合的に行われており、戦争による惨禍を再び繰り返しては成らないという強い意思を感じました。中国語が全くわからない中での訪問で、とても十分な理解が出来たとは言えませんが、公園で見た社交ダンスや習字の練習を含めて見聞きしてきたことをご報告したいと思います。

<その他の催し>

◎ 灘区9条の会主催 神戸大学教職員9条の会共催

<「南京－引き裂かれた記憶」上映会 －講演と映画のつどい>

日時：2009年11月7日（土）午後1時半から

場所：六甲勤労市民センター大会議室

講演「私たちはなぜ南京大虐殺を調査するのか」

松岡環

証言映画「南京－引き裂かれた記憶」上映(85分)

(インタビュー・取材：松岡環、監督：武田倫和)

◎ 11/3 神戸憲法集会(神戸憲法集会実行委員会主催)

11月3日・火曜日・祝日 13時半から 神戸市勤労会館7階大ホール

第1部 神戸青年合唱団と「トーフレンズ」の演奏

第2部 講演 渡辺治さん(一橋大学) 民主党政権下の改憲動向

政権交代はなぜ起こったか、民主党中心政権の二つの側面、民主党政権下での改憲動向、憲法運動の課題などについてお話しいただきます。

(資料代千円・学生500円)

夏のテレビの戦争関連番組を見て

影山純夫(神戸大学教職員九条の会事務局・都市安全研究センター)

毎年8月15日前後には、テレビ局は先の15年戦争関連の番組を流す。今年もやはりそうだったが、NHKは日本海軍の反省会に取材した番組『海軍反省会—400時間の証言』と『兵士達の戦争』（再放送だったかもしれないし、BSではずっと放送を続けているらしい）という番組を流した。前者については、毎日新聞だったかがコラムで取り上げていた。こういった15年戦争の実態を明らかにする番組は、日本の社会状況から考えるとやはり昭和天皇の死後20年という年を経なければならなかったのだろう。しかし、この2つの番組は私にとってあまりにも衝撃的だった。

海軍の反省会というのは、15年戦争の敗戦をうけて、戦争の遂行に責任のあった海軍参謀部(?)の軍人達が何が間違っていたのかを反省するために、戦後何十年にわたって開催された会で、このような会が開催されていたことを我々に明らかにしたことは、NHKのお手柄であったと思う。これまで俗話として、海軍は欧米の軍事力を把握しており開戦には乗り気ではなかったなどと語られることもあったが、これなどは嘘八百、海軍は軍備を拡大するために危険な瀬戸際交渉を行い、状況を見誤って対米開戦に陥ってしまったのだ。第一回の放送の題には「海軍あって国家無し」とあったと思う。海軍参謀部の時代錯誤や場当たり的な対応は、戦艦大和や武蔵の沈没をまねき、特攻隊や回天を生みだし、多くの若者達を死に追いやった。私は日本軍には戦略はないと思っていたが、勝つための戦術さえ無かったのかかもしれないと思うようになった。一人一人の兵士の命など海軍上層部には関心が無く、自らの責任逃れのためにはいくらでも捨て駒として使ったのだ。多くの兵士は犬死にだったのである。

多くの兵士が犬死にだったというのは、『兵士達の戦争』をみてもよくわかる。インパール作戦に加わった兵士の証言によると、この作戦などは「素人が考えても勝てない」ものだったが、陸軍上層部はこれを強行した。そして犬死の兵士を大量に出したのである。また従軍看護婦の証言によれば、戦場で傷ついて移動が難しい兵士を毒殺したこともあったという。そして、証言によくでてくるのが、ほとんど負けることが明らかになったとき「虜囚の辱めをうけない」ために自決が求められ、多くの兵士達が、また従軍看護婦達さえも自決をしたという事実である。戦争における命の軽さ、特に日本軍における命の軽さをいやというほど教えられた。

人が死ぬ、人を殺すことに対する恐れを失わせるもの、それが戦争なのである。人を殺すなかれ、これこそが道徳の基本である。最も反道徳的なものが戦争である。(番組を録画していないので、いろいろと間違いがある恐れがあります。御寛容を。)

不服従

市成 準一(神戸大学教職員九条の会事務局・都市安全研究センター)

♪ああ 父さんのあの笑顔 栗の実 食べては 思い出す♪。これはご存知の童謡「里の秋」の2番の歌詞である。ボランティアをしている湊川隧道内で先月(9月19日)のミニコンサートで、団塊の世代と思われる6名のご婦人達で歌われた。この歌詞は出征しておられる父親の無事を思って歌ったものです。私たちは二度と戦地に息子や孫たちを送ってはなりませんと云うコメントに隧道内は大きな拍手に包まれました。

この湊川隧道は約100年前に完成した河川トンネルで、当時は世界最大級の煉瓦造りの物であった。隧道のレンガは今でも当時の艶やかな紅色と時代を経た渋い濃紅が混ざりあい、母体回帰と云っては言い過ぎかもしれませんが「ほっと」した空間を創り出している。これを近代化遺産として広く知らしめるために、毎月第三土曜日に、ミニコンサートを開催している。見学者の中には車椅子で来られ、

我々を逆に励まして下さる方もおられます。その中に盲導犬をお連れになった眼のご不自由な方が居られ、隧道内を観ることはできないが音を感じる事が出来る、滴が落ちる音が「何とも素晴らしい！」と云われます。

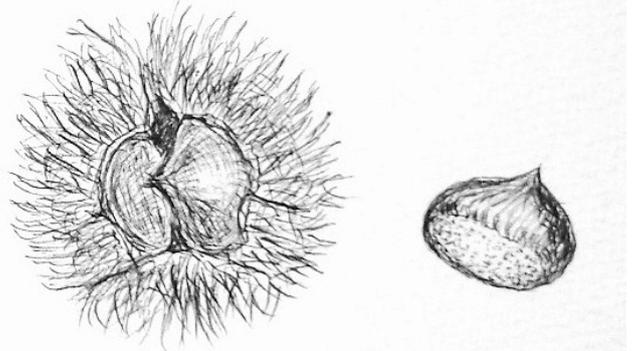
その方から盲導犬で一番難しい訓練が「不服従」だと教えられました。盲導犬は主人に絶対服従で命令に逆らってはならない訓練を徹底的に受けており、鳴き声すらあげない盲導犬にとって不服従とは、主人の発した命令が、主人の身に危険を及ぼす場合には阻止しなくてはならない。

例えば、主人が間違っ赤信号を渡ろうとしている時は、いかにご主人の命令でも従わず、身を呈して阻止しなくてははいけない。「不服従」とは、そう云うことらしい。

憲法改正手続きを定めた国民投票法が成立し、来年(平成22年5月)には憲法改正の国民投票が法的に可能になります。北朝鮮の脅威に対抗するためには改憲すべきとの意見は、これまでの外交の結果であり、憲法とは関係がないと思います。「憲法第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う。」とあります。改憲をすること、そのこと自体が憲法違反なのだと思います。改憲され憲法をいつも意識しなければならないものになってしまっても困る。

終戦後、政治家・軍人やジャーナリストも「戦争に反対だった」と語った人たちが少なからずいたと聞きます。これは安全な場所に安住し、自分の義務を果たさなかったという無責任な告白である。こんな人たちの命令で戦地に赴いた、童謡「里の秋」に登場する善良な父さんや家族、ましてや戦地で亡くなった人たちは死んでも死に切れない思いであろう。

今、言論の自由があるとはいえ、社会に異を唱えれば冷遇され、理不尽な仕打ちが待ち構えているのは何ら 60 年前と変わらない。逃げずに自分の信じることを決断することは容易ではないが、今こそ、「不服従」を貫くときであると思います。



< 事務局からのお願い >

本年度の会費 1000 円の納入をお願いします。お近くの事務局員か世話人までお渡しいただくか、郵便局の振り込み口座「0980-6-327538 神戸大学教職員9条の会」まで振り込むようにお願いします。



9条グッズから

(9条エコバッグ：販売元、全厚生労働組合)

